

【祖父、ヘンリー・パイク・ブイについて】

平野レミ(料理愛好家)
(聞き手―学芸員 佐々木美帆)



― ブイさんが島田兄弟から日本画を教わった方ということは以前から知っていましたが、レミさんのホームページにブイさんの茶室が紹介されているのを見て、私、平成二二年二月に訪問してきました。カリフォルニアで茶室と日本庭園を見ることができるとは驚きでした。

平野レミ: 私もそうでした。お祖父さんが広大な土地を手放した後、色んな人の手に渡ってからは風景も随分様変わりしたようですが、あそこだけはパラディーニさんという今の持ち主が、お祖父さんの建てたままの姿で大事に保存して、庭も手入れしてくれていましたから、今は文化財指定を受けて壊せないようになったんです。

― ブイさんは長く日本に住んでおられて、当代一流の画家たちに絵を随分描いてもらっていたようですね。久保田米穂を始めとする近代日本画から土佐、狩野派など古今の日本画までの膨大なコレクションがあったと聞きますし、日本の楽器や刀類も相当あったみたいですね。

平野レミ: そうなんです。ベートーベンの交響曲第五の原譜も持っていたそうです。どこへ行ったのか分らないけれど、浮世絵もすごいコレクションがあったそうです。

― あちこちに散逸してしまったのですか。

平野レミ: 私はお祖父さんのことはよく知りませんでした。父(詩人で仏文学者の平野威馬雄氏は、アメリカが嫌いで、全然祖父のことを話してくれなくて。和田さん(夫で、イラストレーター、映画監督の和田誠氏)と結婚したとき初めて、サンマテオにお祖父さんの墓があるから行ってくるといいよって父が言ってくれたんです。でもサンマテオのどこだか分からず車であちこち巡っていたら遠くに尖塔が見えて、和田さんが「行ってみよう」とそちらに車を向けたら、そこにはお城みたいな大きなお祖父さんのお墓があったんです。

お祖父さんの日本庭園も探しに行っただけで、見つかったのが例の茶室のある家で、出て来られたご主人に、この家建てたブイの孫だと告げたら、「ちよつと待って!ちよつと待って!」と家に入ってしまったと思っただけで中から奥さんを連れて来たんです。奥さんはいきなり私を抱きしめて「あなたのお祖父さんの作ったこの庭園のおかげで毎日、心豊かに暮らすことができています。本当にありがとう」と言ってくれたんです。それからはお祖父さんのことがもつと知りたくて、テレビで呼びかけて北米人武威(ブイ)と署名が入っている絵を探していると言ったら、あちこちから作品が集まりました。日本人以上に日本人らしくて、日本語を話し、日本が大好きだったお祖父さんのことをもつと知ってもらいたくて、パラディーニさんにお願ひしてサンマテオの茶室で展覧会を開いたら、二〇〇人以上の人が来てくれたんです。

― 個人のお宅に二〇〇人というのはすごいですね。ブイさんの日本画修行歴を見ますと、京都では西川桃嶺や久保田米穂、東京時代には福井出身の島田雪湖・墨仙兄弟に就いて、通算九年になりますよね。そもそもブイさんはどうして日本画を学ぼうとされたのでしょうか?

平野レミ: お祖父さんは日本に来る前にまずフランスへ行ったんですね。当時ヨーロッパはジャポニズム全盛期で、そこですっかり日本美術に魅せられてしまったらしいんです。こんなに素敵なものを作る日本という国に行ってみたくて、実際に行ったら、すぐ好きになっちゃったんですね、きっと。

― ブイさんは日本美術をアメリカ西海岸地域で広める役割も果たされていますね。

平野レミ: いえ、浮世絵版画と思われていたアメリカでは、日本の版画は西洋におけるポスターと同じ扱いをされていると言っていて、あえて版画を除外した日本のオーソドックスに徹した展覧会を開催されています。「On the Laws of Japanese Painting」(日本画の描法)という、島田雪湖の挿絵の入った本も出版されていますよね。

平野レミ: この本はアメリカのある美術学校で教科書になっていると聞きました。ここに描いてある二本の筆の使い方、二本の筆を指にはさんで、一本の筆でかけ(隈取り)をつけ、同時にもう一本ですーっとはかすやり方なんてアメリカ人には思いもつかない方法だと思いますね。

― 確かに実際に苦労した人にしか書けない記述が多いですよ。ところでブイさんは、随分いい家柄の方だったようですね。セオドア・ルーズベルト大統領や、日本の上流階級と付き合いがあり、明治天皇からは旭日勲二等をいただいたとか。また血統的にはナポレオン皇妃ジョセフィーヌとも関係があったと伺いましたが。

平野レミ: ブイ家の母方の方がそうなんです。もともとはスコットランドの貴族の出身で、家に伝わるタータンチェックの柄があるんです。ブイ家の勇敢な一人がアメリカに渡り、メリーランド州の名家となって州知事が二人も出ました。そしてそこからさらにもう一人がゴールドラッシュの時期、カリフォルニアに移って行ったというところらしいです。

― カリフォルニアのゴールドラッシュですか。まだ大陸横断するのも大変な時代だったでしょうに、ブイ家は本当に冒険心に溢れた一族なのですか。

平野レミ: そのカリフォルニアのブイ家の九人兄弟のうち三人が日本に来て、一人は長崎のグラバー邸の近くに、もう一人は横浜の外国人墓地に眠っていて、残りの一人がカリフォルニアのサンマテオに眠っているお祖父さんというわけです。

― 三人もですか。よほど日本に縁がある一家だったのですか。親日家で大富豪のブイさんのおかげで雪湖は教授料を随分もらって生活が楽だったようですよ。アメリカに渡ってからも豪邸に住まわせてもらって、客人待遇を受けたということですか。日本美術の講演会の際には実演者として引き立ててもらったり現地の排日感情からも庇ってもらったりなど、日本国民としては感謝すべき大恩人ですよ。本日は長時間、貴重なお話をいただき大変ありがとうございました。

平野レミ: 展覧会が開かれると聞いたら、お祖父さんや雪湖さん達はきっと喜ぶでしょうね。

(本稿は、平成二二年一〇月に島田墨仙展の資料収集を行う課程で行ったインタビュー内容です。)